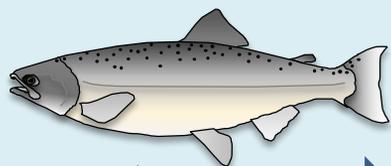


ギンザケEIBS感染履歴検査法の開発

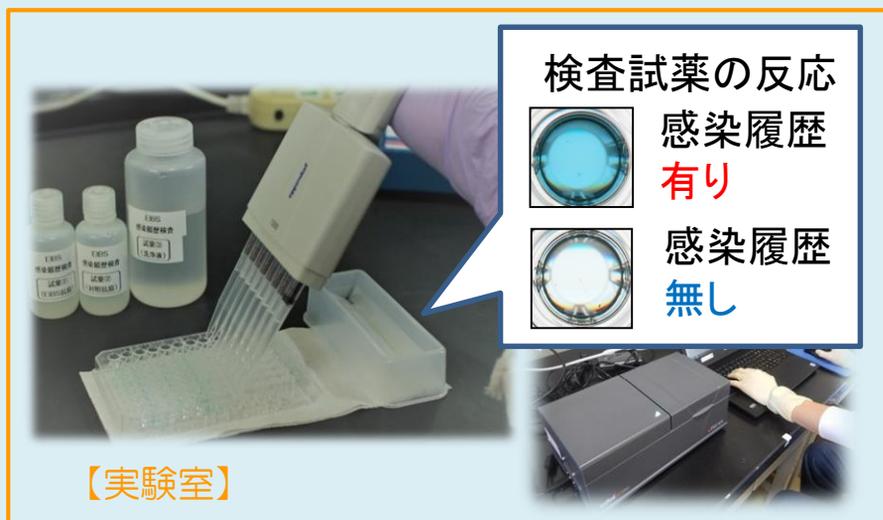
技術の概要

ギンザケ養殖に大きな被害を及ぼすEIBS(赤血球封入体症候群)に感染したことがあるか(感染履歴)を調べるための血液検査法を開発しました。



少量の血液

【養魚場】



検査試薬の反応



感染履歴
有り



感染履歴
無し

【実験室】

期待される効果

種苗期にEIBSに一度感染して回復した感染履歴魚では、海面での発病が抑えられることが知られています。また、感染履歴の無いギンザケでも、飼育方法により被害をある程度低減させることができます。開発した検査法によって、この病気による被害を抑えるための重要な情報を得ることが可能になりました。

【H28年度実証試験】

調べた内水面養殖場10経営体の全てで感染履歴魚が検出され、その種苗の出荷先の海面養殖場で調査した結果、EIBSによる被害はありませんでした。

【お問い合わせ先】 黒川 忠英
(国立研究開発法人水産研究・教育機構 北海道区水産研究所
生産環境部 TEL: 0154-91-9136)

当該技術は農林水産省委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の成果です。